

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 29 年 2 月

○ 概要

（１） 平成 29 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,004 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲12.3%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,949 円（伸び率▲6.0%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,512 億円（伸び率▲4.4%）、薬剤料が 4,482 億円（伸び率▲14.6%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 716 億円（伸び率▲5.3%）であった。（→P.4）

（２） 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,382 円（伸び率▲10.5%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.82 種類（伸び率▲0.2%）、22.6 日（伸び率 4.1%）、84 円（伸び率▲13.9%）であった。（→P.8,9）

（３） 薬剤料の多くを占める内服薬 3,611 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲713 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 775 億円（伸び幅▲115 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 2 億円（総額 236 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,611 億円 (▲713 億円)	21 循環器官用薬 (775 億円)	11 中枢神経系用薬 (599 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (497 億円)
0 歳以上 5 歳未満	37.2 億円 (▲10.7 億円)	44 アレルギー用薬 (14.9 億円)	61 抗生物質製剤 (7.6 億円)	62 化学療法剤 (6.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	97.8 億円 (▲24.4 億円)	44 アレルギー用薬 (43.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (15.4 億円)	61 抗生物質製剤 (12.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,281 億円 (▲271 億円)	11 中枢神経系用薬 (260 億円)	21 循環器官用薬 (233 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (182 億円)
65 歳以上 75 歳未満	886 億円 (▲226 億円)	21 循環器官用薬 (234 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (148 億円)	11 中枢神経系用薬 (102 億円)
75 歳以上	1,309 億円 (▲182 億円)	21 循環器官用薬 (304 億円)	11 中枢神経系用薬 (221 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (163 億円)

（４） 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,949 円（伸び率▲6.0%）で、最も高かったのは石川県（10,623 円（伸び率▲7.1%））、最も低かったのは佐賀県（7,650 円（伸び率▲13.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲1.9%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率▲13.8%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 716 億円（伸び率：▲5.3%、伸び幅：▲40 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	68.5%	+6.1%
薬剤料ベース	16.0%	+1.6%
後発品調剤率	68.3%	+2.9%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.4%	+3.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.3%	+1.0 (0 歳以上 5 歳未満)	▲10.8 (60 以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	16.9% (75 歳以上)	10.5% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	634 億円 (▲38 億円)	21 循環器官用薬 (171 億円)	23 消化器官用薬 (100 億円)	44 アレルギー用薬 (72 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.6 億円 (▲0.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (1.4 億円)	61 抗生物質製剤 (1.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	14.3 億円 (▲1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (7.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	220 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (48 億円)	44 アレルギー用薬 (43 億円)	11 中枢神経系用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	157 億円 (▲15 億円)	21 循環器官用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	33 血液・体液用薬 (17 億円)
75 歳以上	237 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)	11 中枢神経系用薬 (30 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,068 円	1,415 円（岩手県）	885 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	1.5%	+5.6%（鳥取県）	▲3.8%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	68.5%	79.8%（沖縄県）	59.0%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.0%	20.2%（鹿児島県）	13.1%（徳島県）
後発医薬品調剤率	68.3%	79.0%（沖縄県）	61.4%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.4%	56.2%（沖縄県）	39.6%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 2 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。